

国語科学習指導案【第5学年】

- 1 日 時 令和6年11月1日（金）1校時
- 2 学 年 第5学年（6名）
- 3 単元名 やなせたかしの生き方・考え方をとらえ、「アンパンマン」のブックレビューを書こう
「やなせたかし ―アンパンマンの勇気」

4 単元の見通し

- (1) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる。
〔知識及び技能〕(3)オ
- (2) 人物像を具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

5 単元で取り上げる言語活動

「やなせたかし ―アンパンマンの勇気」で捉えた人物像を踏まえて「アンパンマン」のブックレビューを書く。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与している。 ((3)オ)	①「読むこと」において、人物像を具体的に想像している。 (C(1)エ)	①進んで人物像や物語の全体像を具体的に想像し、今までの学習を生かして、ブックレビューを書こうとしている。

7 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編第5学年及び第6学年〔知識及び技能〕(3)「オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。」及び〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」に基づいて設定したものである。

人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方を総合して判断することが必要である。

本教材は、筆者である梯氏がアンパンマンの作者やなせたかしの人生を述べた伝記である。伝記とは、実在の人物の人生を描いた読み物である。本教材には、筆者である梯氏が伝えたい人物の生き方・考え方を伝えるために、人物に起きた出来事やエピソードが時系列で述べられている。それらを事実（出来事）の説明が書かれている部分や、人物の心情などを基軸に物語（エピソード）のように書かれている部分とで整理して読むことで、人物の生き方・考え方を想像することができる。また、読み手は、伝記を読んで、その人物の生き方・考え方を想像することで、自分自身の生き方・考え方を見つめ直すことができる。

また、並行読書で扱うやなせたかし作品には、作者の「自分の信念を貫き、行動し続ける」や「正義を行おうとしたら自分も傷つくことを覚悟しなければならない」という生き方・考え方が表れている。したがって、伝記から捉えたやなせたかしの人物像が作品にどのように表れているかを読むことで、やなせたかしの人物像について作品を通して捉えることができる。

以上のことから、伝記で捉えた人物像が作品にどう表れているかを読むことを通して、やなせたかしの人物像を具体的に想像するのに適した教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、4年生「ごんぎつね」の学習を行った際、登場人物の気持ちの変化や性格について想像するために、複数の場面の叙述を結び付けながら、なぜごんは償いをするかについて考えた。しかし、「ひとりぼっち」などの言葉に着目して考えることができた児童は、全体の16%だった。また、5年生「銀色の裏地」の学習では、対人物の人物像を想像するために、根拠となる叙述を見つけることはできたが、複数の叙述を結び付けて考えることが難しい児童がいた。これらのことから、児童は、複数の叙述や場面設定などを結び付けて人物像について考えることに課題がある。

また、読書活動については、児童アンケートの結果から、「物語や文章を自分で読むことは好き。」という質問に対し、肯定的回答をした児童は33%という数値から、本を読むことに抵抗がある児童が多いといえる。本学習で扱う教材や並行読書を通じて、自分の考えを広げることができる読書のよさについても気付かせたい。

(3) 指導観

①育成したい資質・能力を明確にした単元構想

「アンパンマンのブックレビューを書こう」という言語活動を児童と共有する。そのためには、伝記の特性を捉え、やなせたかしの生き方・考え方について自分の言葉でまとめることが必要だという学習の見通しをもたせる。「伝記」の特性を捉え、やなせたかしの生き方・考え方について自分の言葉でまとめるという学習の見通しをもたせる。また、単元の導入時に自伝ややなせのアンパンマン作品を読み、やなせたかし作品から伝わるメッセージについて考えさせる。

「人物像を具体的に想像する」ことに関しては、教材文の内容について、やなせの人生を時系列で捉えると共に、複数のエピソードを整理することを通して、複数の叙述を結び付けて読み、やなせの人物像を捉えていく。

「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関わることに気付く」ことに関しては、やなせたかしの人物像や考え方について想像させるために、教材だけでなく、「やなせたかしのあんばんまん1973シリーズ」の絵本や他のやなせたかしの伝記や自伝を用意し、並行読書が行える環境を整備していく。そして、授業内では児童が自分で選んだ作品の中に、やなせの考えがどう現れているかを捉えさせる。

単元の終末では、それぞれが読んだアンパンマンの絵本のブックレビューを書くという活動をする。これまでの学習を生かして、やなせたかし作品におけるメッセージについて人物像と結びつけながらまとめていく。

②思考の方法の活用

思考の方法については【つなげる】を活用する。やなせたかしの人物像を想像するために、教材文ややなせたかし作品と結びつける。

8 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準 (評価方法)
【本質的な問い】 ○伝記を読むことの楽しさとはどういうものだろうか。 【単元を貫く問い】 ○やなせたかしの生き方・考え方と作品はどうつながっているのだろうか。				
一	1	・単元の見通しをもつ ・伝記の特性を捉える。	・並行読書としてやなせたかしにまつわる本や初期の作品を設置し、やなせたかしについて知ることができるようにする。	

	2	・学習計画を立てる。 ・新出漢字について学習する。	・やなせたかし作品のメッセージについて叙述を基に捉える。なぜそのようなメッセージを想起したのか、作者に注目を促し、第3次でブックレビューを書くことを示し、学習への意欲をもつことができるようにする。	
二	3・4	・文章を読み、物語のように描かれている部分と事実が書かれている部分と筆者の考えが描かれている部分に整理する。	・ワークシートを活用し、教材文から分かる、事実とやなせたかしの生き方・考え方が分かる部分に分けて時系列で整理できるようにする。	
二	5	・やなせたかしの生き方・考え方に影響を与えた出来事を読み取り、交流する。		
	6	・やなせたかし作品を読み、再度、作品のメッセージについて自分の言葉でまとめる。	・第一次に考えたメッセージと比較することで、伝記を通して、やなせたかしの生き方・考え方についての理解が深まったことを実感できるようにする。	◇〔知・技〕日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること気付こうとしている。(行動)
	7 (本時)	・伝記から読み取った人物像が作品にどのように表れているか自分の言葉でまとめる。【つなげる】	・思考の方法【つなげる】を活用し、整理した人物像と作品から想像したメッセージをつなげて、自分の言葉でまとめる。	◇〔思・判・表〕人物像を具体的に想像することとしている。 (ノート・発言)
三	8	・ブックレビューを交流し、加筆・修正する。	・やなせたかしの生き方・考え方が表れている叙述を引用すること、自分が捉えた人物像を書くことといった書き方を具体的に提示する。 ・選んだやなせたかし作品のどの場面とやなせたかしの生き方・考え方をつなげたのか示して、交流するよう指示をする。	◇〔態〕今までの学習を生かして、進んで人物像や物語の全体像を具体的に想像し、ブックレビューを書こうとしている。 (ブックレビュー)

9 評価の具体

評価基準 (思・判・表)	「おおむね満足できる」状況（B）
人物像を具体的に想像しようとしている。	「それいけ！アンパンマン」のブックレビュー この絵本には、アンパンマンが自分の顔を食べさせることを断るシーンがあります。アンパンマンは「しぬほどおなかがすいているひとでなくちゃぼくのかおはたべさせられない。」と言います。この発言に、<u>やなせたかしが戦争の経験から本当の正義は「おなかがすいている人に、食べ物をわけてあげること」という考えが表れていると思います。</u>また、この絵本の最後には、元気になったアンパンマンにジャムおじさんが「すこしやすんでいきなさい。」と声をかけますが、それを断り、すぐに出発します。<u>何度も入院、手術をしていたやなせたかしも東日本大震災が起こったとき、傷ついた人たちのために力をふるい起こし、歌や復興をテーマにした映画を作っています。困っている人たちのために、自分が傷ついてでも行動し続けるやなせたかしの生き方・考え方が表されています。</u>

国語科学習指導案【第6学年】

- 1 日 時 令和6年11月1日（金）1校時
- 2 学 年 第6学年（8名）
- 3 単元名 「やまなし」の世界観をブックレビューにまとめよう
「やまなし」

4 単元目標

- (1) 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 [知識及び技能] (1) ク
- (2) 物語の全体像を具体的に想像することができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1) エ
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力, 人間性等」

5 単元で取り上げる言語活動

「やまなし」を読んで、作品の世界について想像したことをブックレビューにまとめる。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1) ク	① 「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像している。 (C (1) エ)	① 進んで物語の全体像について考え、今までの学習を生かして、やまなしの世界観をブックレビューにまとめようとしている。

7 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編第5学年及び第6学年〔知識及び技能〕(1)「ク 比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。」及び〔思考力, 判断力, 表現力等〕C読むこと(1)「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」に基づいて設定したものである。

物語の全体像について考えるためには、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基に、その世界や人物像を豊かに想像することが必要である。

本教材は、宮沢賢治の「やまなし」と、宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」から構成されている。「やまなし」は二枚の幻灯である「五月」と「十二月」の二つの場面からなっており、どちらも谷川の底に生きるかにの視点で語られている。また、比喻表現や色を表す表現、オノマトペなどさまざまな表現が読者に「五月」＝死や「十二月」＝生を想起できるように使われている。また「イーハトーヴの夢」という宮沢賢治の生涯について書かれた伝記から、宮沢賢治の生き方・考え方が「やまなし」に表されていることから自然観や生命観等を想像することができる。

伝記資料「イーハトーヴの夢」から読み取った宮沢賢治の人物像を踏まえ、「やまなし」の作品がもつメッセージを捉えていくことに適した教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、5年生「大造じいさんとガン」の学習では、物語の山場について考えた。また、山場から作品がもつメッセージについて想像を膨らませる学習を行った。6年生「帰り道」の学習では、視点の違いに着目して、人物像や物語の全体像について想像してきている。

しかし、全国学力・学習状況調査の物語の全体像を具体的に想像する設問の正答率は50%だった。また、誤答の児童の内、2割の児童が無回答だった。物語の内容を捉えることはできるが、登場人物の様子などがどのように描かれているのかといった表現に着目して想像することが課題である。

(3) 指導観

① 育成したい資質・能力を明確にした単元構想

「『やまなし』を読んで、作品の世界について想像したことをブックレビューにまとめる」という言語活動を設定し、学習の見通しをもたせる。また、宮沢賢治の作品の世界を味わうために、並行読書として、宮沢賢治作品を準備しておく。

文章の構成に着目できるよう、二枚の幻灯を比較する。「比喻や反復などの表現の工夫に気付く」ことに関しては、比較の視点として、「色」「かにかの様子」「比喻表現」を挙げ、二枚の幻灯を整理する。その後、「イーハトーヴの夢」をもとに宮沢賢治の生涯を整理し、彼の生き方・考え方を捉える。

「物語の全体像を具体的に想像する」ことに関しては、「イーハトーヴの夢」から捉えた宮沢賢治の生き方・考え方を踏まえて、二枚の幻灯がそれぞれ何を表現しようとしているのかについて想像していく。また、想像した二枚の幻灯のメッセージを基に、なぜ「やまなし」という題名なのかについて叙述を基に想像を広げていく。

ブックレビューには、二枚の幻灯、「やまなし」という題名に込めた宮沢賢治のメッセージについて考え、物語の世界について想像したことを、賢治の生き方とつなげながらまとめていく。

② 思考の方法の活用

思考の方法については【くらべる】【つなげる】を活用する。単元の前段では、二枚の幻灯の表現（色・かにかの様子・比喻表現）に着目させ【くらべる】を活用して整理していく。【つなげる】については、作者の生き方・考え方と「やまなし」の叙述を結び付け、宮沢賢治が二枚の幻灯や「やまなし」という題名に込めたメッセージについて想像させる。

8 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準 (評価方法)
【本質的な問い】 ○物語の世界を豊かに味わうためには、どんな読み方をするとよいだろうか。 【単元を貫く問い】 ○なぜ題名が「やまなし」なのだろうか。				
一	1 2	・単元の見通しをもつ。 ・学習計画を立てる。 ・新出漢字について学習する。	・初読の感想として、疑問に思ったことや分からなかったこと等を書かせ、「なぜ題名が「やまなし」なのだろうか」という課題を設定する。	
二	3 ・ 4 5	・二枚の幻灯を比較する。 【比べる】 ・「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方・考え方を捉える。	・「色」「かにかの様子」「比喻表現」等の視点を示した上で、思考の方法【比べる】を活用し、二枚の幻灯に何が描かれているのか絵で表して比較できるようにし、全体像を具体的に想像できるようにする。 ・ワークシートを用いて、時系列で出来事と賢治の生き方・考え方を整理できるようにする。	◇〔知・技〕 比喻や反復などの表現の工夫に気付こうとしている。(ワークシート)

	6	宮沢賢治が二枚の幻灯に込めたメッセージを想像する。	前時までに捉えた「五月」「十二月」で描かれているの情景や「イーハトーヴの夢」から読み取った賢治の生き方・考え方を踏まえて、宮沢賢治が二枚の幻灯に込めたメッセージを想像できるようにする。	
	7 (本時)	なぜ「やまなし」という題名にしたのかという理由を考え、まとめる。 【つなげる】	思考の方法【つなげる】を活用して、二枚の幻灯のイメージと宮沢賢治の生き方・考え方をつなげて作品の全体像を具体的に想像し、題名の理由をまとめることができるようにする。	◇〔思・判・表〕物語の全体像を想像しようとしている。 (発言・ノート)
三	8	「やまなし」を読んで想像したことをブックレビューにまとめる。 - ブックレビューを交流する。	- 宮沢賢治の思いが二枚の幻灯や「やまなし」という題名にどのようなつながっているのかという視点を基に、ブックレビューを書くように助言する。 - 児童同士の捉え方の違いなどを味わうことができるよう、どの叙述を基にしたのかを明確に示すよう指示する。	◇〔態〕今までの学習を生かして、進んで物語の全体像について考え、やまなしの世界観をブックレビューにまとめようとしている。 (ブックレビュー)

9 評価の具体

評価基準 (思・判・表)	「おおむね満足できる」状況 (B)
物語の全体像を具体的に想像しようとしている。	「やまなし」は、生と死について表現された物語である。<u>五月は、魚やカワセミなどかにたちにとっておそろしい存在が描かれている。これは自然災害や伝染病といった、賢治が生きた時代の厳しさが表現されている。反対に十二月では、やまなしというかにたちにとって生きる希望ともとれる存在が描かれている。苦しい農作業の中に、楽しさを見つける。工夫することに、喜びを見つける。そうして未来に希望をもつという賢治の理想が表現されている。二枚の幻灯の内、十二月にしか登場しないやまなしを題名にしたのは、厳しい現実打ち勝ち、希望をもつという賢治のメッセージが込められていると思う。</u>

10 学習の流れ（7 時間目／全 8 時間）

(1) 本時のねらい

やなせたかしの生き方・考え方が作品にどのように表されているのかを考え、自分の言葉でまとめることができる。

(2) 本時の展開

10 学習の流れ（7 時間目／全 8 時間）

(1) 本時のねらい

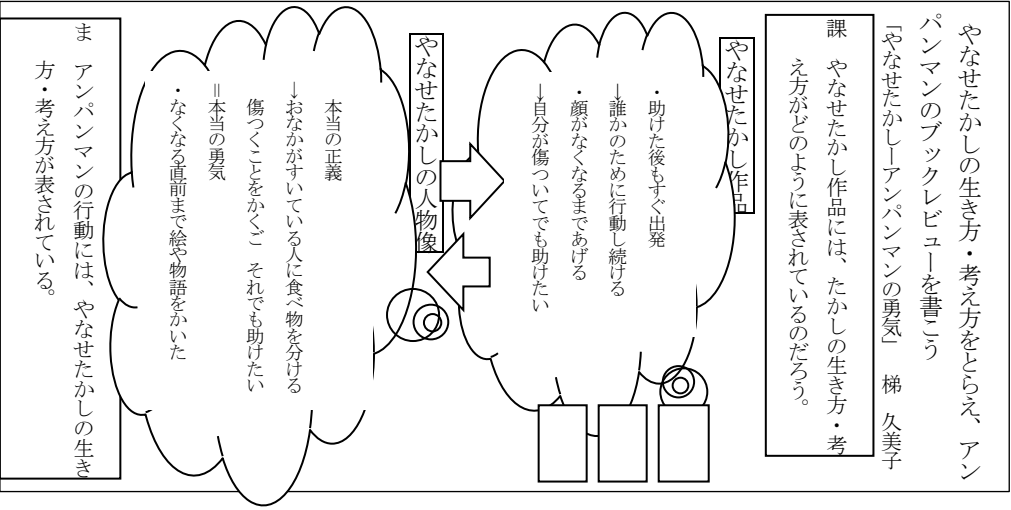
宮沢賢治が「やまなし」という題名に込めた思いを賢治の生き方・考え方を踏まえて想像することができる。

(2) 本時の展開

・指導上の留意点 ◇評価規準（方法）	学習活動		学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準（方法）
・前時に想像したやなせたかし作品のメッセージを板書するよう指示をする。 <予想される児童の考え> - 誰かを助けた後でも、すぐに出発するところから、誰かのために行動し続けることが大切 - 自分の顔がなくなるまであげているところから自分が傷ついてでも助けたい	1. 本時の課題をつかむ。 やなせたかし作品には、たかしの生き方・考え方がどのように表されているのだろうか。 2. やなせたかし作品から想像したメッセージとそうように考えた場面を共有する。 3. やなせたかしの生き方・考え方を共有し、やなせたかし作品にどのように表されているのか考える。		1. 想像した二枚の幻灯のメッセージを共有する。 2. 本時の課題をつかむ。 宮沢賢治が「やまなし」という題名にこめたメッセージとはなんだろう。 3. 「やまなし」という題名に込めたメッセージを想像する。	・前時に想像した二枚の幻灯が何を表しているのか板書するよう指示をする。 <予想される児童の考え> - 五月は自然災害や伝染病が起こったつらい現実が表現されている。 - 十二月は苦しい農作業の中にも楽しみを見つけ、未来に希望を持てる理想が表現されている。 <本時で扱う思考の方法> 【つなげる】 手立て：なぜ物語の終盤でしか登場しない「やまなし」が題名となっているのか問う。 - やまなしは、かにたちにとって生きる希望だと思う。かにたちのように五月というこわい時期を乗り越え、生きる希望をもつことを伝えるために「やまなし」という題名にしたのだと思う。 ◇〔思・判・表〕物語などの全体像を具体的に想像しようとしている。（ノート）
<本時で扱う思考の方法> 【つなげる】 手立て：前時までに整理したやなせたかしの生き方・考え方と作品のメッセージを結びつけて想像させる。 ・作品では、アンパンマンが自分の顔がなくなるまでおなかがすいている人に分ける場面がある。また、顔を元通りにしてもらった後もすぐに誰かのために出発する。これは、やなせたかしはおなかがすいている人に食べ物を分けることが本当の正義だという考え方や正義を行うことで自分が傷つくことを覚悟しなければならないこと。それでも助けたいと思うとき、本当の勇気がわいてくるといったことが表されているのだと思う。				

◇〔思・判・表〕人物像を具体的に想像しようとしている。(ノート)	4. 考えを交流する。 5. 本時のまとめをする。		4. 考えを交流する。	
アンパンマンの行動には、やなせたかしの生き方・考え方が表されている。	6. 振り返りを行う。		5. 本時のまとめをする。 つらい現実を乗り越え、生きる希望をもつことができるように、かにたちにとって生きるための恵みとなったやまなしを題名にしたのではないか。	
			6. 振り返りを行う。	

11 板書計画



11 板書計画

